

東備消防本部の目標

1 職員の能力向上	(1) 個人の資格、免許取得 各課や部署に捉われず専門性の知識等を習得するため、予防技術検定、危険物取扱試験、消防設備士、大型自動車免許等の資格、免許の取得を図り個人の能力を高める。 (2) 各種研修の受講 各関係機関が行う、研修、講習会に積極的に参加し、個人の能力を高め組織全体の底上げを図る。 (3) 全国大会出場、全国大会での発表 救助大会の全国大会出場を念頭に、まずは中国大会突破を目指し、減点0で岡山県大会上位を狙う。 職員意見発表については、建設的、斬新な意見を盛り込んだ内容とし、全国の消防職員に影響を与えられるような意見を提出する。
2 消防活動能力等の向上	(1) 特殊災害への対応強化 近年、化学物質漏洩等の災害が全国的に発生しており、当消防本部管内においても発生する事態に備え災害に対応するため、NBC 災害対応マニュアルを作成し、訓練を実施する。 (2) 安全管理を前提とした消防活動能力の向上 消防職員の殉職や労働災害を撲滅するにあたり、ヒヤリハット事例等を参考に、安全管理の徹底を行う。 現在の新築家屋は耐火構造に引けを取らない密閉構造のため、火災戦術が高度化している傾向にある。建物構造から火炎の性状を読み解き、人命救助第一優先で活動を実施する。 また、現場活動においては署活系無線等を活用し、リアルな情報を共有することにより、現場活動をスムーズに行う。
3 連携体制の強化	(1) 消防団・他本部との連携 備前市・和気町の消防団と協力し、火災による災害の軽減のため連携強化を図り、令和6年度岡山市内で発生した林野火災のような事案に対応すべく訓練を積み重ねる。 当消防本部管内には山陽自動車道や県道ブルーラインが走り、火災事案や救助事案が多発しており、近隣消防本部からの応援が必要不可欠である。 各消防本部との連携訓練を行うことにより、活動能力の向上を図る。 (2) 自主防災組織、地域住民との連携 近年、発生が危惧されている南海トラフ地震に対応するため、自助、共助、公助の観点から、主に自主防災組織を中心とした地域住民の防災意識

	の向上、備前市総合防災計画及び和気町総合防災計画に基づく訓練を実施サポートする。
4 救急活動体制の強化	(1) CPA 対応時の救急活動体制の充実強化 当消防本部管内各医療機関との顔の見える関係を構築し、さらなる受け入れ体制の強化を図り、CPA 傷病者を早期に医師の元へ搬送すると同時に特定行為を行うことにより、傷病者の社会復帰を目指す。 また、岡山大学病院ドクターカーの運用も始まり、CPA 事案に限らず、緊急度、重症度の高い傷病者の救命のため、積極的に要請する。 (2) 応急手当の普及と救急車の適正利用の促進 傷病者の救命や手当において、バイスタンダーの存在は必要不可欠であり、一人でも多くのバイスタンダーを随時養成していく。 また、毎年度実施している小中学校生に対し、「命の授業」を継続し、未来のバイスタンダーの育成を実施する。
5 活力ある職場づくり	(1) 指揮命令系統の充実 事務職、現場に関わらず、上司の指揮命令に従い、業務を遂行する。 (2) 情報共有の促進 上司部下ともに報告・連絡・相談を密に行い、通達や通知等周知が必要な事柄については、庁舎内イントラネットを活用し情報共有を図る。 (3) ハラスメント防止 全国各地でハラスメントによる問題は発生している。当消防本部でもハラスメントは許されないという認識を持ち、日頃からの言動に注意し、問題があった言動に対しては、注意喚起し職員全体で考える職場作りを目指す。 ハラスメント窓口を設置し、組織としての取り組みを実施しているが、今後も引き続き職場環境の改善を図る。
6 DXによる消防業務の効率化	(1) DX による効果的な事務の推進 各事務処理をデータ化することにより、事務処理の効率化を図り、事務負担を軽減させる。現在、時間外記録簿や差引簿のデータ化も進み、ペーパーレスへの実行が図れている現状を踏まえ、さらなる書類のデータ化を進めていく。 (2) SNS を利用した広報の推進 東備消防 Instagram 等を活用し、職員採用があれば積極的に情報を提供し、将来有望な新職員の採用を進める。また、様々な情報を紹介することにより、住民に親近感を持ってもらい、東備消防への理解を深めてもらう。